

2022年度 第1回 教育課程編成委員会 議事録

日 時：2022年7月7日（木）15：00～16：18

会 場：岩国YMCA国際医療福祉専門学校5階502教室

参加者：村岡 恒信 様 認知症予防クラブ 会長

安永 彰子 様 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

松本 奈実 様 岩国市役所健康福祉部健康推進課健康づくり班 主任

山永 則宏 様 特別養護老人ホーム 光葉苑 施設長

江見 享子 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長

田中 信也 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

藤中 優子 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科長

矢野 結花 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長

佐々木 洋子 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科長

議事内容

1. 報告および審議事項

1) 2022年度 学生の状況 別紙資料

学校側から以下の報告がなされた。

①卒業生の状況

2021年度は保健看護学科38名、看護学科25名、介護福祉学科16名、医療秘書学科16名の計95名が卒業した。

国家試験結果として合格率は、保健師が78.9%（全国平均89.3%）、看護師が保健看護学科97.4%、看護学科91.3%（全国平均91.3%）であった。介護福祉士の合格率については100%（全国平均72.3%）

就職状況として、岩国市内への就職が27名（28.3%）であった。

②入学生の状況

2022年度の入学生は、保健看護学科45名、看護学科18名である。また、在校生の総数は211名である。

2) 保健看護学科 2022年度新カリキュラムについて 別紙資料

学校側から以下の説明がなされた。

教育理念はこれまでと変更はない。教育目的については表現を見直した。

教育目標については今回のカリキュラムからディプロマ・ポリシーとした。ディプロマ・ポリシーは主語を学生とし、4年間で身に付けてほしい内容とした。

本日は「(6) 地域で生活する人々に、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に

向けての看護を実践することができる」という内容に関連し、実際に今年度から1年生に実施している科目についてのちほど紹介する。

カリキュラム・ポリシーについては、保健看護学科としてカリキュラム作成上、意識した点を示したものである。その中で(2)では、「1年次に岩国市を踏査し、地域で生活する人々とその家族や地域全体を理解するための導入とする」を挙げ、また、(3)では「暮らしの支援ができる能力」を育成したいということを謳っている。

保健看護学科は看護師の教育課程で「地域・在宅看護論」、保健師の教育課程で「公衆衛生看護学」を学習していくが、本日はそこにつなげていく導入の科目として「地域と暮らし」を新カリキュラムから配置したので紹介したい。この科目は基礎分野で1年前期開講、1単位、15時間、8回の講義を実施するものである。

学習目的は「岩国の概況を知り、地域の特性や生活を感じる」と設定している。具体的には、1回目の講義では岩国市について学ぶ理由やそれぞれが住んでいる地域の違いについて、2回目では岩国市の歴史について学び、その後、バスにより岩国全域の地区踏査を実施し、岩国のことを知ってもらうことにした。事前オリエンテーションにおいて、2年生の公衆衛生看護学での地域診断を学んでいく過程では、情報収集の方法として実際に地域を歩いて調査するが、その前段階として今回の地区踏査があるという話をした。また、岩国市在住の学生が少ないため、地理的特徴の確認をし、1年生でも簡単に調べることのできる人口、高齢化率についてはまず調べてもらい、データの確認を行った。

地区踏査は7月1日にバスでの移動によって実施した。学校からまず錦町方面へ向かい、錦帯橋周辺、玖珂・周東地域、由宇町を經由して学校に戻るというルートであった。住宅密集地域から農業地域、商業地域、官公庁、漁業地域、工業地域などさまざまな地域をバスの車窓から、一部は徒歩にて踏査を行った。

今回の地区踏査の記録用紙に関しては7月11日(月)に提出してもらうことになっており、生活者の視点でイメージを膨らませながらまとめるように話をしている。

今後、「地域と暮らし」を専門科目(地域・在宅看護論、公衆衛生看護学)にどうつなげていくかということを意識しながら、2023年度のシラバスを作成したいと考えている。また、新カリキュラムの内容を教員全員が理解し、共通認識の上で運用していく必要があると思われる。

【質疑応答・ご意見】

委員：第2次岩国市健康づくり計画「いきいき・わくわく・にっこり岩国」の観点から地域のことを感じることはよいのではないか。錦町あたりでの学生の反応はどうだったか。

学校：学生も楽しそうであった。少しでも地域の人たちがどんな暮らしをしているか感じてほしかった。災害などで一本道が閉鎖されたらどうなるかということも話したりした。

委員：地域によっては、救急車が通れない箇所もあり、夜中に当番制での救急車替わりを検討されたこともあった。ただ、そういった地域は高齢者も多く、実現はむずかしいようである。

委員：市街地周辺のことでも知ったらよいのではないか。

委員：4年生のときに行っている臨地実習の地区踏査につながるといいと思われる。

委員：地域によってニーズなども異なるので、そういったことも学べてよかったのではないか。

3) 看護学科 2023年度第5次カリキュラム改正の進行状況について 別紙資料 学校側から以下の説明がなされた。

2023年度の改定に向けて準備を行っている段階でその経過について報告をしたい。

教育理念、教育目的は保健看護学科と同様である。

教育目標（ディプロマ・ポリシー）について強化した箇所は、「3）科学的根拠に基づき、看護の実践に必要な臨床判断できる基礎的能力を身につけることができる。」「6）保健・医療・福祉システムの一員として、多職種との連携・協働をすることを認識しながら、多様な場で生活する人々へ看護を実践することができる。」である。

アドミッション・ポリシーに関しては、准看護師の有資格者が対象で看護師を目指すということで、「1）これまで学習したことを活かしながら、向上させる意志がある人」を入れている。

カリキュラム・ポリシーの中では、カリキュラム編成として、建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕の精神」を踏まえ、保健看護学科と同様「キリスト教と人間理解」を配置し、また、「地域・在宅看護概論」では、地域包括ケアシステムと地域共生社会の在り方を理解し、地域での暮らしを継続するために必要な看護支援を学ぶ内容とした。「地域・在宅看護方法論」では、学生自身が地域の特性を捉え、それに対して外部の方から助言をいただきつつ、地域での看護師の役割を考える予定である。1年次の専門分野の講義・演習を主体的に行ったうえで、2年次には患者に何が起こっているか気づく「臨床判断」の科目を配置する予定である。それ以外としては、がん患者に対する科目として「成人看護方法論Ⅳ（がん看護）」を新設する。

旧カリキュラムでは指定規則が65単位だったが、新カリキュラムでは68単位に変更された。それを踏まえて本校では74単位分の開設を予定している。

【質疑応答・ご意見】

委員：何を具体化していくのかがまだ見えづらいのではないか。入院時から退院（在宅）までを見据え、地域連携室などで退院支援を行っている病院が増えていることを踏まえ、地域包括ケアシステムを考えたらよいのかもしれない。地域包括ケアシステムについては、岩国市地域包括ケア推進協議会の各部会での活動を聞いたりするこ

とで理解につながると思われる。

学校：多職種連携をどう進めるかが悩みとなっている。多職種の中の1つである介護職について、何か意見はあるか。

委員：介護の現場では、ケアマネージャーが中心になって多職種と連携している。そういった中での専門性を知っていくのがよいのではないか。

学校：実習で居宅介護支援事業所も行っているが、その場に行くとイメージは湧くようである。

委員：DVDやWEB研修などでも多職種研修もあり、そういったものを見るだけでも変わるのではないだろうか。

学校：まずは学内で看護としての事例を多職種の方からアドバイスをもらえたらよいのではないかと考えている。コマ数のこともあるので、あまり手を広げられない現状もある。意見を参考に考えていきたい。

4) 介護福祉学科 2年カリキュラム進行状況 別紙資料

学校側から以下の説明がなされた。

2年生については入学時にカリキュラムが変更されている。厚生労働省から人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術、コミュニケーション力などの時間数を増やすよう指示があったため、それに関する時間数を増やした。医療的ケアは、旧カリキュラムで指定より増やしていたが、新カリキュラムでは時間数を減らした。授業時間は2年間で1950時間、2年次は1050時間となっている。レクリエーションでは生活を豊かにしようということでアロマセラピストの先生に来てもらい、アロマセラピーの授業を行っている。これについては希望者には検定も受けさせている。

この2年生が最後の学年となるので、専任教員2名が生活支援技術を含めて教え、学生には事例のテーマを持って最後の実習に臨ませ、研究テーマとして取り組ませようとしている。

学生の自立支援を学科の目標として、学生自身が考えられるように持って行きたい。

【質疑応答・ご意見】

委員：岩国市にとって岩国YMCAの卒業生がいなくなることは大きな損失である。

学校：お世話になった実習先には何かお返しができないかと考えている。もし、何かあればお伝えいただきたい。

委員：病院としても介護福祉士の活躍の場が増えつつある中、学科がなくなるのは大変残念である。

5) コロナ禍での学習状況について 別紙資料

学校側から以下の報告がなされた。

現状としては、感染予防対策を行いながら対面での授業を実施しているが、感染拡大した際には家庭内感染による濃厚接触者が発生したため、オンライン授業も併用した。

オンライン授業だと学生の反応がわかりづらいため、極力対面で実施したいと考えている。

2021年度の臨地実習状況については、介護福祉学科は実習時期を調整し、実施することができたが、保健看護学科と看護学科は個人によって実施率が異なっている。臨地実習が行えない場合、学内でより臨場感のある実習をどのように実施していくかが大きな課題となっている。シミュレーターの使用については教員も熟知する必要がある。

6) その他

次回の委員会は2023年2月、もしくは3月に開催予定であることをお伝えした。

以上

記録：田中 信也

2022年度 第2回 教育課程編成委員会 議事録

日 時：2023年2月9日（木）15：00～16：30

会 場：岩国YMCA国際医療福祉専門学校1階会議室

参加者：村岡 恒信 様 認知症予防クラブ 会長

安永 彰子 様 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

松本 奈実 様 岩国市役所健康福祉部健康推進課健康づくり班 主任

江見 享子 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長

田中 信也 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

藤中 優子 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科長

矢野 結花 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科長

佐々木 洋子 様 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科長

欠席者：山永 則宏 様 特別養護老人ホーム 光葉苑 施設長

議事内容

1. 報告および審議事項

1) 学校名変更のお知らせ

学校側から以下の報告がなされた。

2023年3月末での介護福祉学科閉科に伴い、4月1日より学校名を「岩国YMCA保健看護専門学校」に変更することとなった。

2) 2022年度学生の状況とカリキュラム進捗状況

学校側から以下の報告がなされた。

① 保健看護学科 別紙資料

教育力の向上をはかることができる、学科教員全員が共通認識を持って新カリキュラムの運用ができるという学科目標を立てて運営してきた。具体策は以下の通り。

- ・学生への学習サポートについては、コロナ感染拡大から3年目となり、ほとんど対面授業を実施できているが、コロナやインフルエンザ感染者で体調が悪くない者に対してや公共交通機関の計画運休などの場合にオンラインで講義が受けられるように対応していることが挙げられる。また、分散登校もほとんど行ってはいない。教室使用に関しては同じフロアに多くのクラスが集中しないように配慮した。
- ・臨地実習に関しては、臨地での経験が学生によって個人差は若干あるものの、昨年度よりも実施できている。学内で実施する場合は、シミュレーターなど模擬患者を活用するなど工夫して行った。
- ・学内実習では個々の学生に合わせた指導計画を立てて対応するようにした。
- ・学習継続に向けては保護者の協力なしでは難しいため、各学年で保護者会を実施した。

また、気になる学生については担任が保護者と頻繁に連絡を取って協力を得るように努めた。保護者に本校に来てもらい、話をすることも多い。

- ・学校行事は感染予防に努めながら実施してきた。オンライン学校祭や新入生交流会などを行った。卒業生を送る会についても、3年生を中心に現在準備中である。
- ・新カリキュラムの導入初年度となったが、新旧カリキュラム同時進行のため、同じ演習を1年生と2年生に実施することがいくつかあった。教員の業務負担が増加した部分があったように思われる。次年度以降もしばらく同時進行が続くため、教員間で協力しながら進めていきたい。
- ・次年度から領域横断科目が始まるが、領域ごとの教員が協力しながら、最初はオムニバス形式で行っていくことになると考えている。連携を取りながら早急に準備を進めたい。
- ・教員の教育力向上についてであるが、外部の研修に出向くことは難しいものの、オンラインでの研修には参加できている。また、12月28日には学内で教職員研修会が実施され、「教育と学習の基本」というテーマで研修を行った。保健看護学科では今年度は新人教員の模擬授業は実施できたが、授業研究の企画できなかった。次年度は全員ができるよう対策を検討していきたい。また、ICTの活用に関する研修会に教員も参加しているので実際の授業で実施できるようにしていきたい。
- ・教員にもラダー実施しており、各レベルの目標に応じて年間計画を立てている。最終評価をしていきたいと考えている。
- ・学生募集の取り組みに関しては、学校説明会へ学科長、実習調整者だけでなく、それ以外の教員も担当してもらうようにした。中学校、高校での職業講話や職業体験なども実施した。
- ・また、オープンキャンパスで新カリキュラムの特徴を説明したが、十分に伝わったか定かではない。再度内容を見直したい。在校生と参加者がコミュニケーションを図れるように次年度も継続するが、コロナの影響もあり、卒業生からメッセージを伝えてもらう機会がなかったため、次年度は実施したいと考えている。

【質疑応答・ご意見】

委員：保護者との連携や協力はうまくできているのか。

学校：成績不振に関しては協力的な保護者が多い。学校の教育に対するご意見をいただくこともある。保護者会等で学校まで足を運んでくださる保護者は学校について理解いただいていると思う。来校していただくことが難しい場合は電話で説明しているが、電話より対面の方が話は伝わりやすい。

委員：山口県看護協会ナースセンター事業のプレナース発掘事業に参加したことはあるのか。

学校：現状では参加していない。

委員：10月に光市と山口市で看護の魅力発見というイベントを実施したのだが、そこでオープンキャンパス的なことや進路相談を行っていて、120～130名くらいの参加者があったように聞いている。そういったところで学校が協力してアピールする場ができるとういのではないか。

学校：7～8年前に岩国で実施したときには参加したことはあった。

委員：高校での職業講話などに卒業生の職員を参加させているので、病院に依頼があれば、業務出張扱いで卒業生をオープンキャンパスに協力できる。

委員：プレナース発掘事業では推進委員の方たちが振り分けをしたり、あるいは自らが出向いたりして、中学校等で進路の話や看護の魅力に関する話をしている。YMCAが協力できることを表明すればそういった場にも参加できるのではないだろうか。

学校：ぜひ参加させてもらえるように声をかけたい。次々年度看護学部開設予定の大学もあり、学生募集が更に厳しくなるので、できることは実行していきたいと考えている。また、学生の就職についても地元貢献していきたい。

学校：実習に際して何か気づきや助言があればお伺いしたい。

委員：実習においてすべての学生がすべての体験をできるわけではないので、学生同士で体験したことをグループワークなどでシェアしてもらえたらと思う。

② 看護学科

- ・学生への学習サポートについては、オンライン授業の活用が挙げられる。看護学科全学生40名のうち、この1年でコロナ陽性者が16名、濃厚接触者11名あったが、それらの者に対してオンライン対応で授業を行うことができた。また、臨地実習については臨地での経験率が学生によって差が大きく、40～70%台であった(平均で55%)。臨地実習を行えない場合には、学内でシミュレーターや視聴覚教材などを使用し対応したが、対象のイメージを持たせづらい等臨場感を出すことが難しいと感じる。その他に訪問看護ステーションのご協力で、オンライン上で患者様の情報をいただいて計画を立てて発表し、アドバイスをもらうなどの方法も行った。時間的余裕があり、しっかり振り返りができるという学内実習の利点を活かせるように配慮した。
- ・個々の学生の指導に関しては、まずはできているところや学生の考えを受け入れた上で、何ができていないか、患者様の立場になったらどうかということを伝えるようにしている。ただし、中には理解が難しい学生もいるのが現状である。
- ・保護者との連携は、社会人経験者の学生もいるため、必ず学生に確認をしてから行うようにしている。ただし、今年度は特に連絡を取るようなこともなかった。
- ・昨年度まで学科内での交流会が行えていなかったが、今年度は実施したり、実施予定である。
- ・カリキュラム改正については、8月末に申請書を提出し、12月承認された。
- ・教員の教育力向上に関しては、全員が研究授業を行うこととし、臨床判断能力を向上

させる内容を意識してもらった。3回ほど実施し、あと2回ほど行う予定である。

- ・ICT活用においてはなかなか難しいと感じているが、Classroomでの小テストなどは実施した。学生からは解答がすぐわかるという点でよかったという反応があったが、逆に試験勉強の際に紙を配布していないため、見直すのが難しいという意見もあった。スマホで繰り返し見ることができるという学生もいるのでその点を伝えてみるとよいかもかもしれないと考えている。
- ・外部研修にはなかなか参加できていないのが現状である。
- ・個人目標の立案、実践、評価は行っている。
- ・これ以外に、今年度10月から専門実践訓練給付金の対象校になったため、社会人の入学者増につながると考えている。ただし、対象校として継続するためには、2年間の在籍率80%と国家試験合格率全国平均以上が必要となる。
- ・今年度退学者は1名で、2年後期での退学となった。
- ・県内の准看護学校が今年度で閉校するため、今後の募集に関しては厳しい状況となる。山口県内への就職率は50%で11名が就職予定である。

【質疑応答・ご意見】

委員：マスク生活で表情が読めないところでコミュニケーションをはかることは難しく、困るのではないか。

学校：学生から臨床の場で困っているということは聞いていない。また、教員の学生把握という点では、学生数も少ないので十分把握できているように感じる(看護学科)。学生の目を見ることである程度把握できていると思われる(保健看護学科)。実習においては、利用者の方から学生に声をかけてもらえるのであまり問題ないのではないか(介護福祉学科)。今後、実習先とは相談しながらの対応となると思われるが、まだしばらくマスクは外せない状況と感じている。

③介護福祉学科

- ・2023年3月で学科が閉科することを踏まえて学生たちに自立を促した。
- ・学生への学習サポートについては、まず、健康管理をしっかり行うことで臨地実習を実施できるように配慮した。その結果、予定をずらしながらも臨地実習を実施でき、学内実習は行わずに済んだ。ただし、障がい者施設での実習とボランティア活動は実施できなかった。
- ・また、国家試験全員合格を目指し、国家試験対策を水曜日に実施した。模擬試験も12回行った。1月29日に国家試験があり、自己採点では全員合格点に達していた。国家試験対策では若い層と年配層で取り組み方が異なり、若い層はスマホで学習、年配層は本を使用していた。
- ・現状11名中8名が就職内定をいただいている。3名については支援を続け、2月中に

は行先を決定できればと考えている。

- ・閉科に伴う対応として、非常勤講師への礼状、実習先へのお礼の訪問、備品等の整理を行っている。

④その他

学校全体としてコロナ感染については、これまで学内でクラスターは発生していないが、学生と教職員合わせて3分の1程度の者が感染した。すべて家族等からの感染ということであった。

2月10日に保健師、2月12日には看護師の国家試験が実施される。結果は介護福祉士も含め、3月24日14:00の発表となっている。

今年度の卒業式は3月3日、次年度の入学式は4月5日に実施される予定である。いづれも感染対策は実施しながら、在校生の参列を行う。

3) 2023年度学生募集の状況

学校側から以下の説明がなされた。

2月9日現在で保健看護学科は定員40名に対し、合格者38名、手続き完了者27名となっている。看護学科は定員25名に対し、合格者25名、手続き完了者24名となっている。あと3回の選抜での上積みに期待したい。

4) 看護学科 2023年度第5次カリキュラム改正について 別紙資料

学校側から以下の説明がなされた。主な変更は以下の通りである。

- ・基礎分野 「キリスト教と人間理解」「心理学」を追加。英語科目を1科目削減。
- ・専門基礎分野 特に変更はない。ICTを活用したへき地医療について美和病院の院長にご担当いただくことになった。
- ・専門分野 基礎看護学 講義と演習を組み込んだ科目として「基礎看護技術Ⅰ～Ⅲ」に変更した。「臨床看護総論」は成人看護学から位置づけ変更。
地域・在宅看護論 「地域・在宅看護概論Ⅰ」「地域・在宅看護方法論Ⅰ」を導入。学生自身が住んでいる地域の特徴・特性・課題等をまとめる。
成人看護学～精神看護学 各方法論を2単位から1単位に変更。がん看護追加。
看護の統合と実践 多職種連携の内容を「看護管理学Ⅰ」に追加。「臨床判断」を追加。
臨地実習 「母性看護学実習」は時間数を90時間から60時間に変更。

現行の指定カリキュラムは65単位であるが、本校は68単位で運用している。新カリ

キュラムの指定は 68 単位であるが、本校は 74 単位となっている。単位数は大幅に増えているように見えるが、時間数的には 15 時間のみの増加となっている。

【質疑応答・ご意見】

委員：新しいカリキュラムになると教員の教育力の向上が必須となるのは間違いないのではないか。

学校：事前学習をオンラインで実施し、授業は思考する場という位置づけなのであろうが、現実には大変難しいと感じている。

学校：12 月の教職員研修でも、座学で教員が全部話をするだけではなく、グループワークも取り入れたりして工夫する必要があるということを学んだ。引き続き教育方法を考えていかなければならない。

委員：研修については休みを取って参加することが多いのか。

学校：自己研修が多い。コロナ禍では現状の業務に追われてなかなか参加ができていない。

委員：病院においても研修に参加する者が少ない傾向にある。また、管理職を育成することが大変になっている。

学校：今後はコロナを理由にはできなくなるので、教員にはよりきちんと研修取り組ませる必要があると考えている。

5) その他

以上

記録：田中 信也